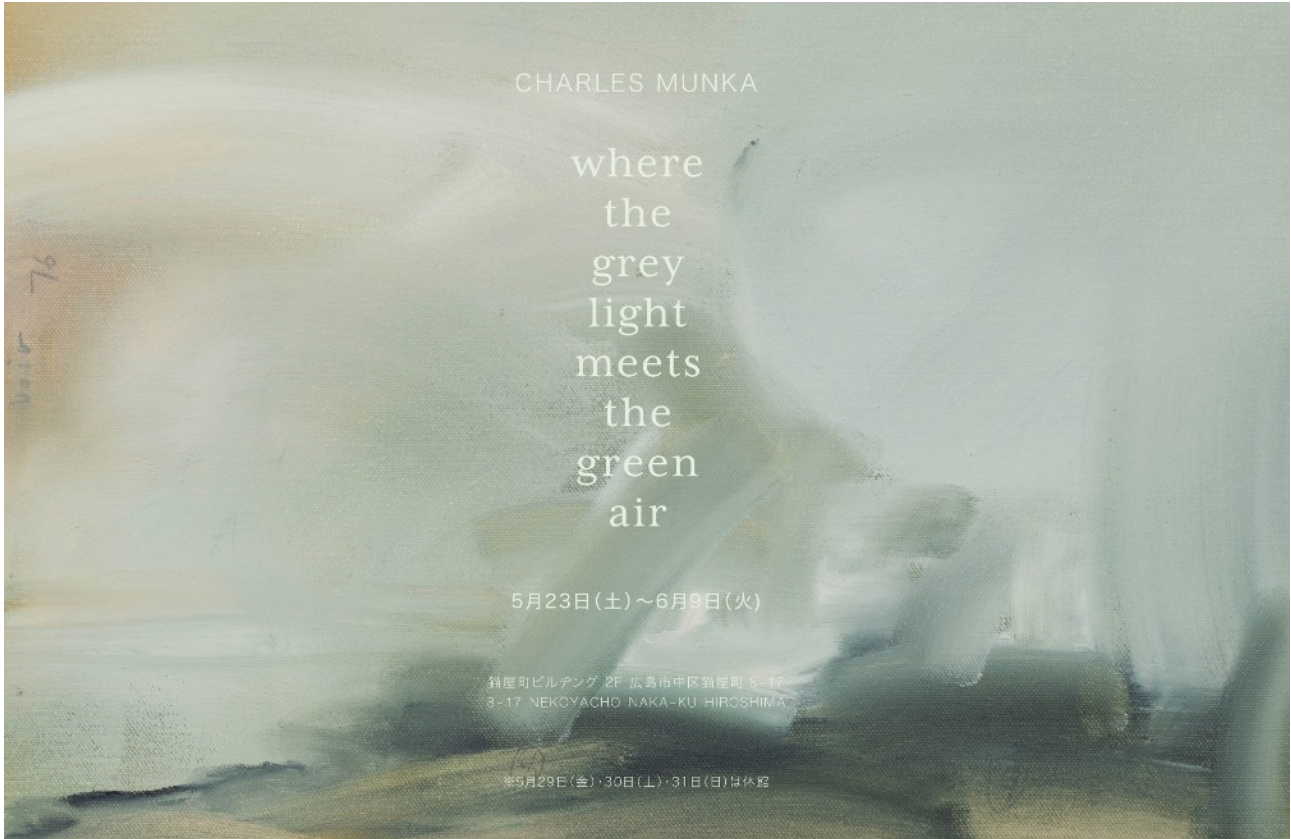


Press Release
報道関係者各位

2026年5月20日
et cetera

佐渡島在住のフランス出身アーティスト Charles Munka、約2年半ぶりに広島で個展開催
猫屋町ビルディングにて新作シリーズを発表



2026年5月23日(土)より、広島・猫屋町ビルディング 2F 猫屋町ギャラリーにて、フランス出身アーティスト Charles Munka (シャルル・ムンカ) による個展『WHERE THE GREY LIGHT MEETS THE GREEN AIR』を開催いたします。

ムンカは、フランス・リヨン生まれ。2018年より新潟県佐渡市を拠点に活動しています。2023年、猫屋町ビルディングのオープニング企画として開催された展覧会『Tameshigaki』では、多くの反響を呼びました。広島での個展開催は約2年半ぶりとなり、本展では新作シリーズを発表いたします。

本展の作品群は、「ある場所から次の場所へ移りゆく、その狭間の瞬間」を描いた絵画です。風景として立ち現れながらも、そこに特定の土地や座標は存在しません。時間や場所を通り過ぎるなかで蓄積される感情や空気、すべてがななお動き続け、何ひとつ定まっていない刹那。その不確かな移ろいこそが、新作シリーズの主題となっています。

展覧会タイトルは、詩人 T.S. Eliot の一節から引用されたものです。“grey light (灰色の光)”と“green air (緑の空気)”が交わるこの言葉は、曖昧な境界や移行する時間を象徴し、ムンカの描く風景世界とも静かに響き合います。

油彩、アクリル、チャコール、プリントトランスファーなど複数の技法によって構築された画面は、記憶と漂流、現実と抽象のあいだを静かに往還。小さな画面のなかには、旅の断片のような景色が広がります。本展では、計20点を展示予定です。

展覧会概要および会場詳細は、次ページ以降をご覧ください。

■ アーティストよりコメント

The paintings from “Where the grey light meets the green air” read as landscape but name no particular places. Instead they explore the instants where feelings and atmospheres accumulate as we pass through time and places, when everything is still in motion and nothing has been decided yet.

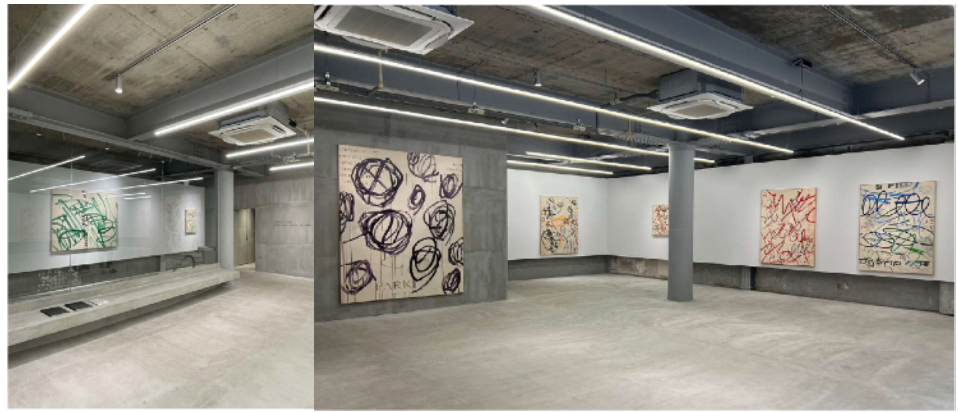
Small in scale, like the glimpses they evoke, the works are direct. Colors are mixed on the surface, paint applied with bare hands. The series accumulating the way a journey does, the route revealing itself as it unfolds. The whole oscillates between orientation and drift, between knowing where you are and having lost the thread entirely.

”Where the grey light meets the green air”の絵画は風景として読めるが、特定の場所を指し示すのではない。むしろそれらは、時間や場所を通り抜けるなかで感情や空気が積み重なっていく瞬間をとらえ、すべてが動き続けながらも何ひとつ決定されていない、その刹那を探っている。垣間見た光景のように小さなスケールで、作品は直接的である。色は画面上で混ざり合い、絵具は素手で塗られる。このシリーズは旅のように積み重なり、展開とともに道筋が立ち現れていく。全体は、方向を見定めている状態と漂流とのあいだ、自分がどこにいるかを知っている感覚と、完全に手がかりを失う状態とのあいだを揺れ動いている。

■ Charles Munka (シャルル・ムンカ) プロフィール

フランス・リヨン生まれ。2000年にフランスを離れ、東京、上海、香港を経て、2018年より新潟県佐渡市を拠点に制作活動を続けています。

<http://www.charlesmunka.com/>



2024年「TAMESHIGAKI」猫屋町ビルディング（広島）

■ 個展

- 2026年「SCENES」Taachi Gallery（佐渡）
- 2024年「TAMESHIGAKI」猫屋町ビルディング（広島）
- 2023年「TAMESHIGAKI」INS Studio（東京）
- 2022年「GAPS IN COVERAGE」Taachi Gallery（佐渡）
- 2019年「AKITSU PAINTINGS」Space Union Gallery（ソウル）
- 2017年「LINGUA FRANCA」Institut Francais du Japon（東京）
- 2016年「HAWALA」Clemens Gunzer Gallery（チューリッヒ）
- 2015年「ALTERNATE TAKES II」Above Second Gallery（香港）
- 2014年「SCAVI」Clemens Gunzer Gallery（チューリッヒ）

■ 展覧会概要

展覧会名 | Charles Munka “WHERE THE GREY LIGHT MEETS THE GREEN AIR”

会期 | 2026年5月23日（土）～6月9日（火） ※5月29日（金）・30日（土）・31日（日）は休館

時間 | 11:30 – 19:00（水曜定休・5/29～31休館）

会場 | 猫屋町ギャラリー

住所 | 広島県広島市中区猫屋町8-17 猫屋町ビルディング 2F

会場URL | www.nekoya-cho.jp

企画 | Archipel、etc.inc

■ 本展プレスに関するお問合せ先

et cetera

担当 | 伊勢

メール | ise@et-cetera.co.jp

■ 猫屋町ビルヂング

広島・東京を拠点とする建築設計事務所 SUPPOSE DESIGN OFFICE（サポーズデザインオフィス）は、依頼を待つだけでなく、自らが本当に作りたい空間や感動する建築を生み出すため、分野を横断しながら活動を続けています。近年では、「食堂」「BIRD BATH & KIOSK」「絶景不動産」などの新規事業を立ち上げ、企画から運営まで一貫して手がけています。

同社が目指しているのは、自分たち自身が本気でわくわくしながら働ける“遊び場”であり、空間実験の場をつくること。そこは、自分たちらしい働き方や、新しい設計事務所のあり方を模索し続けるクリエイティビティの源にもなっています。そして2023年秋、「食べる、働く、ととのう」をテーマに、一階から屋上まで多様な機能がゆるやかにつながる小さな複合商業施設「猫屋町ビルヂング」が広島・猫屋町に誕生しました。

「FRAME AWARDS 2025」にて、“Small Office of the Year”を受賞。<https://frameweb.com/project/nekoyacho-building>

住所 | 広島県広島市中区猫屋町8-17

最寄駅：広島電鉄6 番系統 土橋駅から徒歩2分

定休日（1階） | 水曜

電話 | 050-8890-3796

URL | <https://www.nekoya-cho.jp/>

1F 飲食店



食堂 Instagram@shashokudo.hiroshima

“社員+社会の食堂”が話題のオカン料理「食堂」。夜もしっかり吞めて食べれるオールダイニングスタイル。

yacone Instagram@yacone.icecream

サポーズデザインオフィス代表の吉田愛がプロデュースするクラフトアイスクリーム「yacone」。瀬戸内の旬の素材をふんだんに使用したワインやコーヒーに合うアイスクリーム。

2F ギャラリー



行為によって名前がつく場所。
ギャラリー、イベント、時には
レストランへと移ろう場。

使い手の思考が介在することで
この場所に名前が生まれます。
物や事を伝える文化活動の拠点
として運用します。

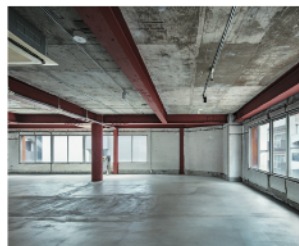
3F 設計事務所



建築設計事務所
サポーズデザインオフィス

建築設計事務所サポーズデザイン
オフィスが舟入本町から猫屋
町へと移転。

4F イベントスペース



余白の空間
定例のトークイベント開催など

オープニング時にはスナックイ
ベントやライブイベントも開催。

5F サウナ



坪庭を眺めながらのサウナ
半屋外のととのいスペース

自然光が入る坪庭を眺めながらの
サウナ。ビルの5階に位置しなが
らも半屋外の“ととのいスペー
ス”。天井が空に抜けているの
で、星空を見ながらととのうこと
も。